※ 大岡裁き

ある田舎者が江戸に出て働いた。ある日ウナギ屋の前を通ったらいい匂いがするので入って食べてみた。しかし匂いの割にいい味ではなかった。男は匂いの方がよいと考えて、ウナギ屋とウナギ屋の間に家をたて、窓をあけ放って、匂いをかぎかぎいつも酒を飲み、その代金を大きい貯金箱に入れていた。

そうして三年程したら、ウナギ屋から請求書が来た。匂いだけだから払わない、払えと争いになり、大岡越前にうったえられた。越前は貯金箱をもって二人に出頭せよといって来た。越前はウナギ屋に代金を払うから持って帰れといい、貯金箱をジャラジャラ鳴した。そして匂いだけだから、代金は音で持って帰れといった。